

AND 株式会社 **エー・アンド・ティ**

(証券コード：7745 東証1部)



平成20年3月期 中間決算説明会

平成19年11月15日

平成19年4月－平成19年9月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents



1. 20年3月期中間期の概況
2. 計測・計量機器事業 実績-1
3. 計測・計量機器事業 実績-2
4. DSP事業の業績について
5. DSP事業について
6. 医療・健康機器事業 実績-1
7. 医療・健康機器事業 実績-2
8. 財務分析(貸借対照表)
9. 財務分析(キャッシュフロー)
10. 設備投資・減価償却費の推移
11. 20年3月期通期見通し
12. 計測・計量機器事業 見通し-1
13. 計測・計量機器事業 見通し-2
14. DSP事業における取組み-1
15. DSP事業における取組み-2
16. DSP事業における取組み-3
17. DSP事業における取組み-4
18. 医療・健康機器事業 見通し-1
19. 医療・健康機器事業 見通し-2
20. 新製品紹介
21. 補足資料

20年3月期中間期の概況



(単位：百万円)

連 結 損 益	19 / 3 期 中 間 実 績	20 / 3 期 中 間 実 績	前 年 比	20 / 3 期 中 間 予 想	予 想 比
売 上 高	14,687	17,369	+18.3%	18,600	-6.6%
売 上 原 価	7,921	8,899	+12.3%	9,240	-3.7%
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	5,892	7,025	+19.2%	7,320	-4.0%
営 業 利 益	874	1,445	+65.3%	2,040	-29.2%
経 常 利 益	879	1,337	+52.1%	1,756	-23.9%
税 引 き 前 利 益	884	1,332	+50.7%	1,748	-23.8%
当 期 純 利 益	606	865	+42.7%	1,062	-18.5%
1 株 当 たり 利 益 (円)	27.34	38.78	+41.8%	47.63	-18.6%

(注) 20年3月期中間期予想は、5月18日付の「平成19年度3月期決算短信（連結）」にて発表
した予想であります（以下同じ）。

計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		19/3期 中間実績	20/3期 中間実績	前 同 期 比	20/3期 中間予想	予 想 比
計測・計量機器事業	売上高	9,668	9,134	-5.5%	10,000	-8.7%
	売上原価	5,424	5,348	-1.4%	5,640	-5.2%
	販管費	3,446	3,778	+9.6%	3,850	-1.9%
	営業利益	797	8	-99.0%	510	-98.4%

業績のポイント

- DSP事業、電子ビーム関連ユニットが前期を下回る実績
⇒売上高は前期比5.5%減少し、粗利益も前期比・予想比ともにマイナス
- DSP事業において、開発費用が引き続き高水準
⇒ほぼ予定通りの費用発生だが、売上の遅れにより営業利益は大幅な落ち込み

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	1 9 / 3 期 中 間 実 績	2 0 / 3 期 中 間 実 績	前 年 同 期 比	2 0 / 3 期 中 間 予 想	予 想 比
計 測 機 器	818	1,014	+24.0%	840	+20.7%
計 量 機 器	5,426	5,670	+4.5%	5,830	-2.7%
計測・制御・シミュレ ーションシステム (DSP)	2,056	1,524	-25.9%	1,960	-22.2%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	1,367	926	-32.3%	1,370	-32.4%
売 上 合 計	9,668	9,134	-5.5%	10,000	-8.7%

計測機器 : 引張試験機の新製品 (RTF/Gシリーズ) や電子計測器が好調に推移

計量機器 : 汎用天びん・ロードセルが好調で、全体的にも堅調に推移

DSP : ADTとの技術統合問題、認知が進み引合は増えているが、売上寄与に時間がかかっている

電子ビーム関連ユニット : 主要取引先からの受注・納品に遅れ発生

DSP事業の業績について



(単位：百万円)

	用途種別	18/3期 (実績)		19/3期 (実績)		20/3期 (実績)
		上期	下期	上期	下期	上期
新規事業	自動車関連	964	1,595	1,803	1,811	1,289
	試験機関連	63	80	42	78	78
	その他	209	1,672	211	187	157
	小計	1,236	3,347	2,056	2,076	1,524
既存事業への DSP技術 応用	特殊試験機関連	186	162	144	252	108
	計量制御関連	42	49	53	221	100
	医療機器					
	小計	228	211	197	473	209
合計		1,464	3,558	2,253	2,549	1,732
売上合計 (通期)		5,022		4,801		

ADTとの共同開発において、ターゲットとするマーケット及び開発戦略の見直しを行った。ORION・RR/CD等の製品ラインアップの充実により当社製品への評価は高まり、引合とそれに伴う具体的案件は増加しているが、案件の大型化により「予算取り⇒受注確定」までのプロセスに予想以上に時間がかかっている。

ADTとの技術統合について

A & D VS ADT

志向性の違いの顕在化

	市場での認知度	ターゲットエリア
A & D	エンジンベンチの世界では後発で、知名度もない状態からのスタート	ハイエンド製品からの参入を目指したい
ADT	ADTは汎用製品市場で一定の地歩を築き、ブランドも認知されている	汎用製品のマーケットを優先的に取り組みたい

ギャップ

今後の方針

- ・ ADTの考えを取り入れ、汎用製品においてもコスト差別化の可能な製品を投入

⇒フルライン化を図ってマーケットを開拓する



医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		19 / 3 期 中間実績	20 / 3 期 中間実績	前 年 同 期 比	20 / 3 期 中間予想	予 想 比
医療・健康機器事業	売 上 高	5,020	8,235	+64.0%	8,600	-4.2%
	売 上 原 価	2,497	3,551	+42.2%	3,600	-1.4%
	販 管 費	1,868	2,562	+37.2%	2,870	-10.7%
	営 業 利 益	655	2,122	+224.0%	2,130	-0.4%

業績のポイント

1. 医療機器・健康機器ともに、売上は堅調に推移

⇒ロシア現法化の効果で、前期比大幅増

2. 販管費については、ロシアに新設した子会社（ADR）の費用がフル（6ヶ月分）に発生したため前期比増加しているが、想定以下の水準であり大幅な営業利益増を実現

医療・健康機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製品種別	19 / 3 期中間実績	20 / 3 期中間実績	前年同期比	20 / 3 期中間予想	予想比
医療機器	861	997	+15.8%	1,170	-14.8%
健康機器	4,159	7,238	+74.0%	7,430	-2.6%
売上合計	5,020	8,235	64.0%	8,600	-4.2%

医療機器：海外へのOEM供給の遅れもあり予想は下回ったが、国内販売体制強化の効果が出始め前期比増（全自動血圧計等が堅調に推移）

健康機器：
 ・主要マーケットのロシアを始め全体的に堅調
 ・ロシアM&A効果が6ヶ月フルに寄与し、前期比大幅増

財務分析（貸借対照表）



■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	19/3期末	20/3期中	前期比	コメント
流動資産合計	32,590	31,132	-4.5%	受取手形及び売掛金△1,729、現金及び預金△627、棚卸資産+789
固定資産合計	14,163	14,131	-0.2%	有形固定資産+139 無形固定資産△120
資産合計	46,753	45,262	-3.2%	
負債合計	27,135	24,917	-8.2%	短期借入金△1,251、未払法人税等△430、その他△868
純資産合計	19,618	20,345	+3.7%	利益剰余金+731
負債及び純資産合計	46,753	45,262	-3.2%	

財務分析（キャッシュフロー）



■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

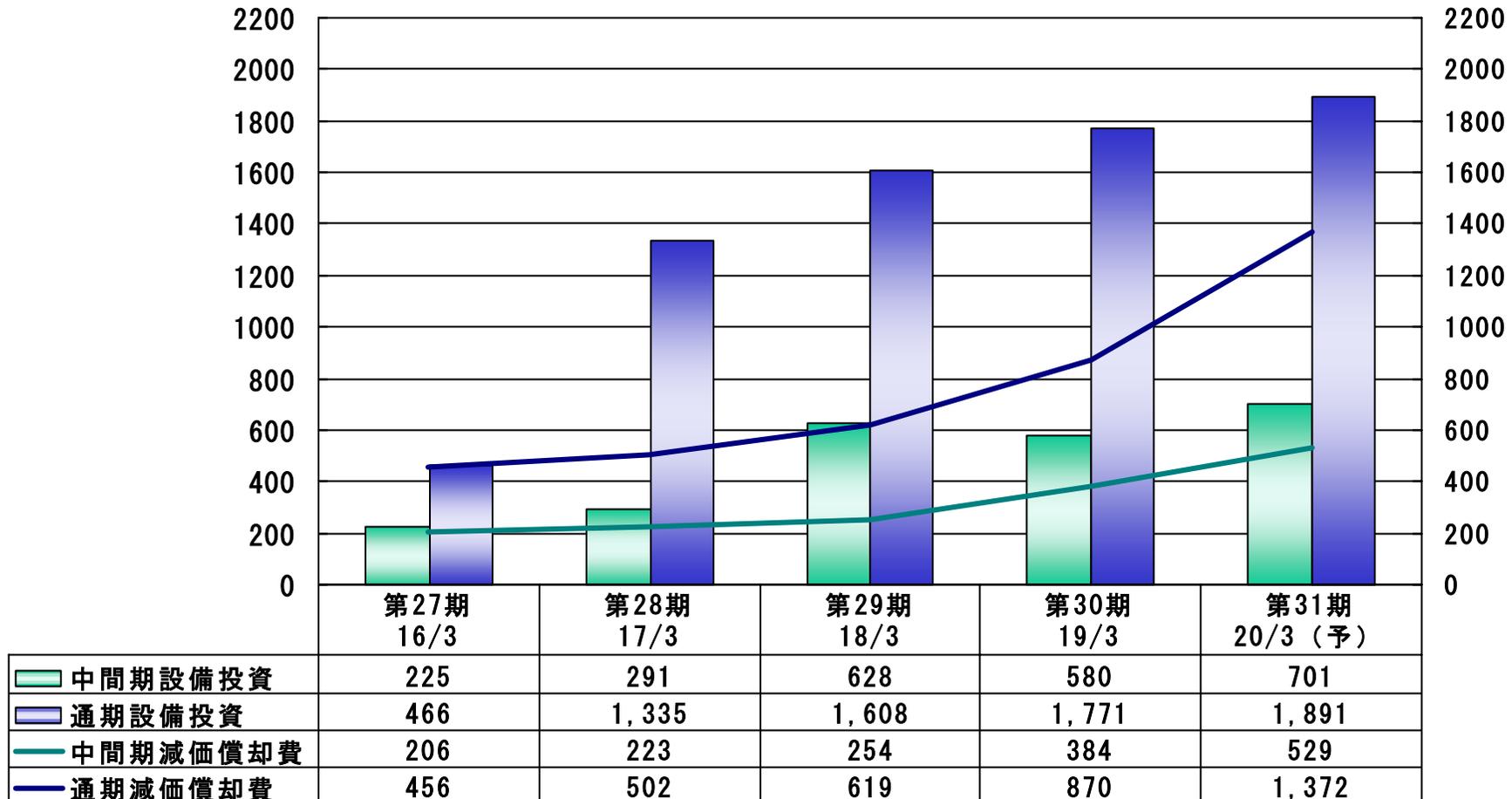
連結キャッシュフロー	19 / 3 期中	20 / 3 期中	コメント
営業活動によるCF	△266	1,131	税前純利益+1,332、減価償却費+795、売上債権減+1,771、棚卸資産増△739、法人税等支払△810、その他△1,016
投資活動によるCF	△3,027	△966	有形固定資産の取得△756 無形固定資産の取得△157
財務活動によるCF	3,254	△857	短期借入金の返済△1,241
現金及び現金同等物の増加額	△9	△660	
現金及び現金同等物の期末残高	4,966	2,612	

設備投資・減価償却費の推移



(単位：百万円)

(単位：百万円)



今期の設備投資は、社屋の増設や実験棟の機械装置等に費用がかかり、引続き高水準

20年3月期通期見通し



(単位：百万円)

連 結 損 益	19 / 3 期 通 期 実 績	20 / 3 期 通 期 見 通	前 期 比	コ メ ン ト
売 上 高	34,767	38,890	+11.9%	
売 上 原 価	18,722	20,305	+8.5%	家庭用血圧計の伸長により収益率の向上
販売費及び一般管 理 費	12,703	14,215	+11.9%	開発費の増加
営 業 利 益	3,342	4,370	+30.8%	
経 常 利 益	3,418	3,880	+13.5%	前期は為替差益280百万円、 開発助成金135百万円有り
税 引 き 前 利 益	3,394	3,870	+14.0%	
当 期 純 利 益	2,349	2,570	+9.4%	
1 株 当 た り 利 益 (円)	105.73	115.19	+8.9%	

計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	19/3期 (実績)	20/3期		前期比		
		中間実績	下期見通			
計測・計量機器事業	売上高	19,868	9,134	10,686	19,820	-0.2%
	売上原価	11,554	5,348	6,345	11,693	+1.2%
	販管費	7,108	3,778	3,882	7,660	+7.8%
	営業利益	1,207	8	459	467	-61.3%

1. 売上

上期不振だった新規事業（DSP事業・電子ビーム関連ユニット）を中心に巻き返すも、通期ではほぼ前期並みを予想

2. 販管費

開発費（DSP事業）は引続き高水準を維持

計測・計量機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製 品 種 別	20/3期 中間実績	20/3期 下期見通	19/3期 下期実績	前 期 比	20/3期 通期見通	前 期 比
計 測 機 器	1,014	1,186	1,177	+0.8%	2,200	+10.3%
計 量 機 器	5,670	6,013	6,027	-0.2%	11,683	+2.0%
計測・制御・シミュレーションシステム (DSP)	1,524	2,358	2,076	+13.6%	3,882	-6.1%
電子ビーム関連ユニット	926	1,129	921	+22.6%	2,055	-10.2%
売 上 合 計	9,134	10,686	10,201	+4.8%	19,820	-0.2%

計測機器

: 既存製品の好調を維持しつつ、DSP応用製品の拡販に注力

計量機器

: DSP技術を応用して新しい計量プラットフォームを開発 (c A DX)

DSP

: 案件大型化・当社企画提案に伴いスケジュールは遅れ気味だが、案件ごとのマイルストーンを着実に達成 (成果の顕在化は来年度から)

電子ビーム関連ユニット: 上期のマイナス分をカバー出来ず、前期比マイナスの見込み

DSP事業における取組みー1

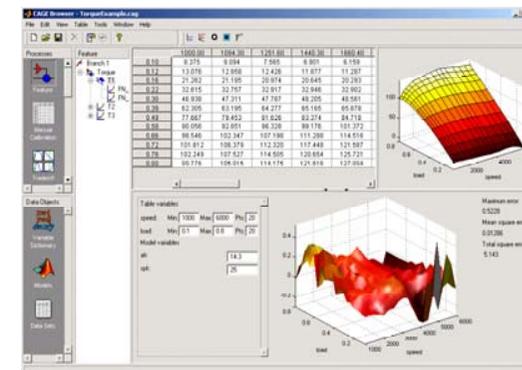
中国現地法人設立

DSP事業

商号 愛安德技研貿易（上海）有限公司
所在地 中国 上海市
設立 平成19年10月
資本 140千米ドル

中国での自動車マーケット

- ・ 自動車販売台数で世界2位に
- ⇒世界の自動車メーカーが進出している
- ・ （開発ツールの）競合メーカーは既に進出済み
- ⇒中国でのビジネスの早急な立ち上げが必要



会社設立の狙い

- ① 拡大するマーケットでの収益拡大
⇒ ORION等の差別化が可能な製品を中心に、成長著しいマーケットで本格的に販売活動を推進
- ② 将来的にはテスト施設を持ち、現地でのデモを行える様にする
⇒ 中国の自動車メーカーも開発機能を持つ様になってきており、ニーズに応えるために必要

ORIONの販売開始

IAV社と共同開発を進めてきた
適合ソフト (ORION) が、日・
米・欧で同時発売

ORIONの特徴

・一貫性

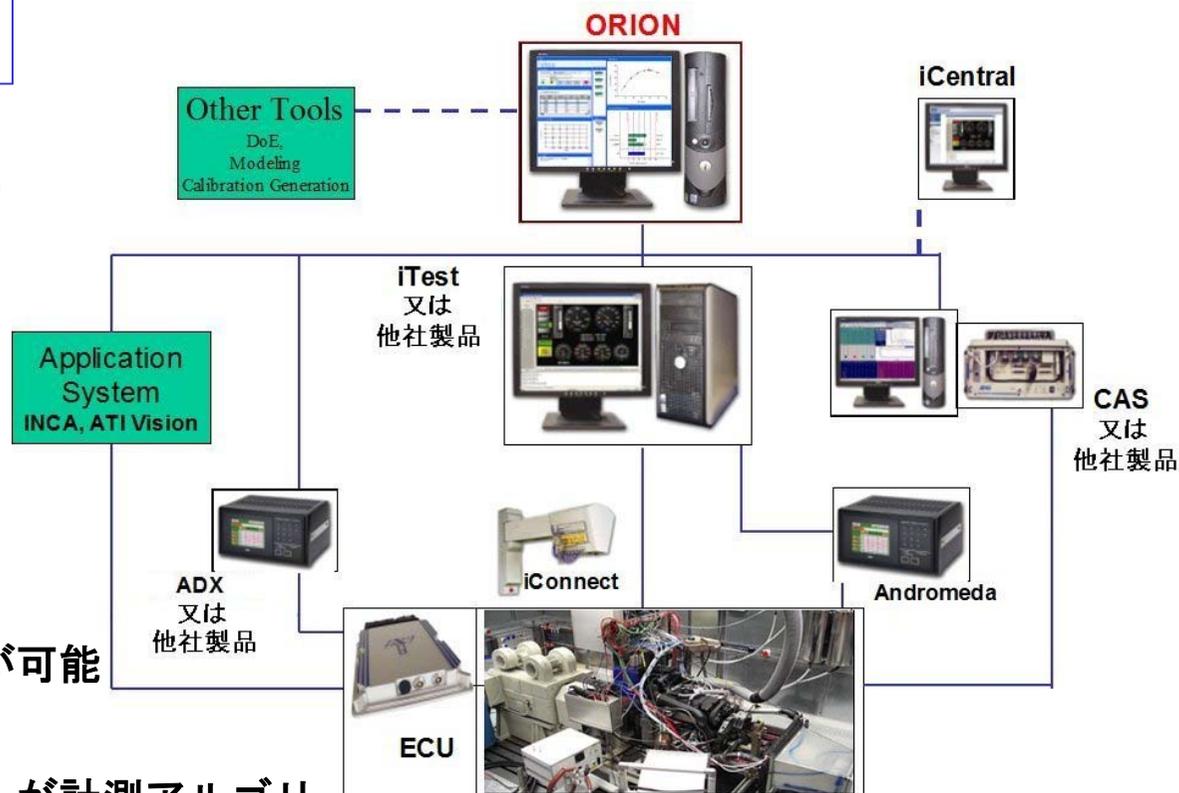
全てのプロセスを一貫して
行う事が出来る事から、適合
プロセス全体の効率化を図る事が可能

・フレキシビリティ

カスタマイズが容易で、ユーザーが計測アルゴリズムの作成等、各自の仕様に合わせて設定を変更出来る

・オープン性

他のシステムとの接続が可能であり、今まで使用していた資産の有効活用が可能



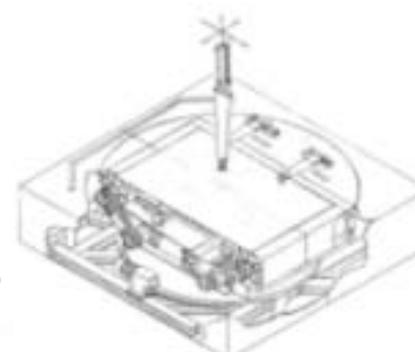
DSP事業における取組み－3

現在進行中の案件について－1

■ 自動車全体の挙動を把握

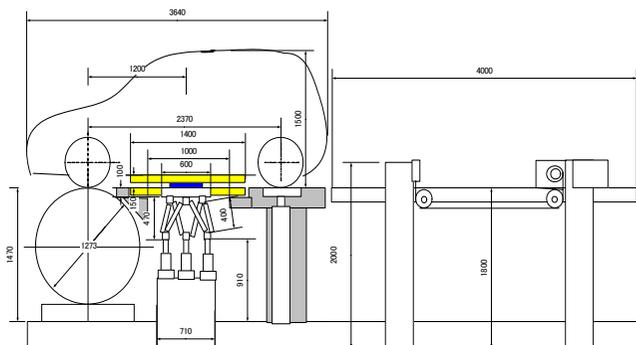
① 実車風洞用システム

自動車メーカーにおいて、車体の空力特性を検証するための風洞に設備する高速μビンゲベル装置及び6分力計。



② RR/CD (Real road-Chassis dynamo)

ローラーの上で車両を走らせる事によって、路面走行を行う前に、坂道発進等様々な条件を想定してテストを行う装置



DSP事業における取組み－4

現在進行中の案件について－2

■ DSP技術によって、従来よりもはるかに高精度な計測を実現

①軸トルク計 (RTS)

エンジンの動力を伝達する軸トルクの値を計測して、エンジンの燃焼状況を正確に把握する事が可能

②ホイールトルク計 (WFS)

路面からタイヤにかかる力を計測して、車の乗り上げショックや加速時のタイヤの設置状態を把握 (誤差0.1%)

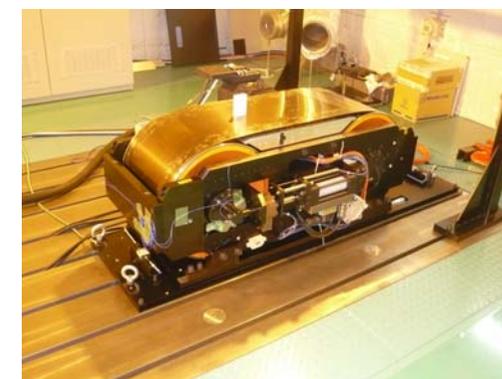
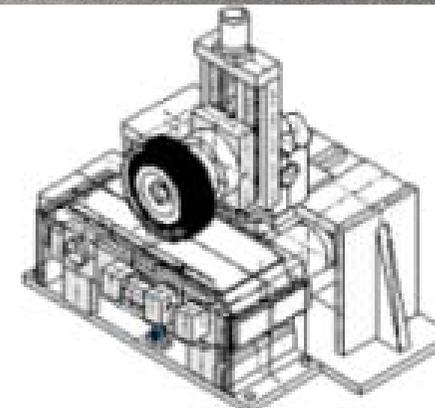
■ 自動車の個々のパーツ開発においてもDSP技術が活躍

①フラットトラック式タイヤ試験装置

高速回転する金属ベルト上でタイヤに負荷や駆動力を与え、走行を模擬した試験を行う。従来のローラー上で回す方式と比較し、より実際の路面走行に近い試験が可能

②ミッションベンチ

エンジンの駆動力、並びに車両の他の部分や路面状況をシミュレーション化した力をダイナモを通じてミッションに与えて、ミッションの性能評価のテストを行う試験装置



医療・健康機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	19/3期 (実績)	20/3期		前期比
		中間実績	下期見通	
医療・健康機器事業	売上高	14,899	10,835	+28.0%
	売上原価	7,168	5,061	+20.1%
	販管費	4,446	2,663	+17.5%
	営業利益	3,284	3,111	+59.3%

1. 売上

(去年実施した) ロシアでのM&A効果が通期で寄与する事から、前期比大幅増加

2. 営業利益

・ロシアでのM&A効果により販売管理費増加を吸収して、前期比大幅増

医療・健康機器事業 見通しー2



(単位：百万円)

製品種別	20/3期中間実績	20/3期下期見通	19/3期下期実績	前期比	20/3期通期見通	前期比
医療機器	997	1,023	886	+15.5%	2,020	+15.6%
健康機器	7,238	9,812	8,993	+9.1%	17,050	+29.6%
売上合計	8,235	10,835	9,879	+9.7%	19,070	+28.0%

医療機器：国内販売体制の強化を継続

健康機器：全世界を対象としたマーケット分析・製品開発を行う体制を作り、市場のニーズに一層スピーディーに応える

新製品紹介

■ 治療名人～絶対値と変動率で生体監視

安全・安心な歯科治療をサポートする生体情報モニタ管理ソフトで、生体情報モニタで計測されたデータを取り込み、生体情報モニタのみでは判断しにくい患者さんの様態変化をビジュアルに表現。



■ 体脂体重計



UC-403

■ 血圧計850シリーズ



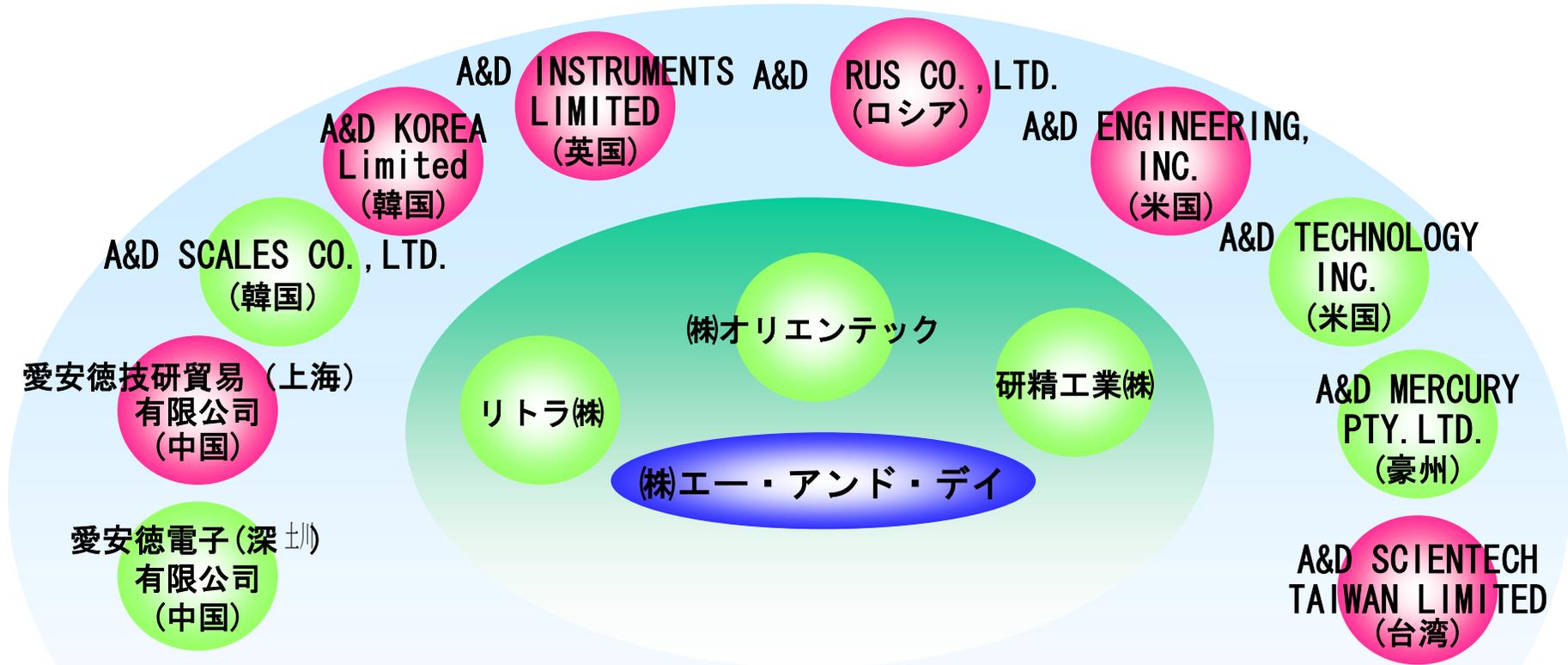
UA-851

補足資料



- 1 グループの概要
- 2 開発の状況

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

-  生産・開発関係会社
-  販売関係会社

開発の状況

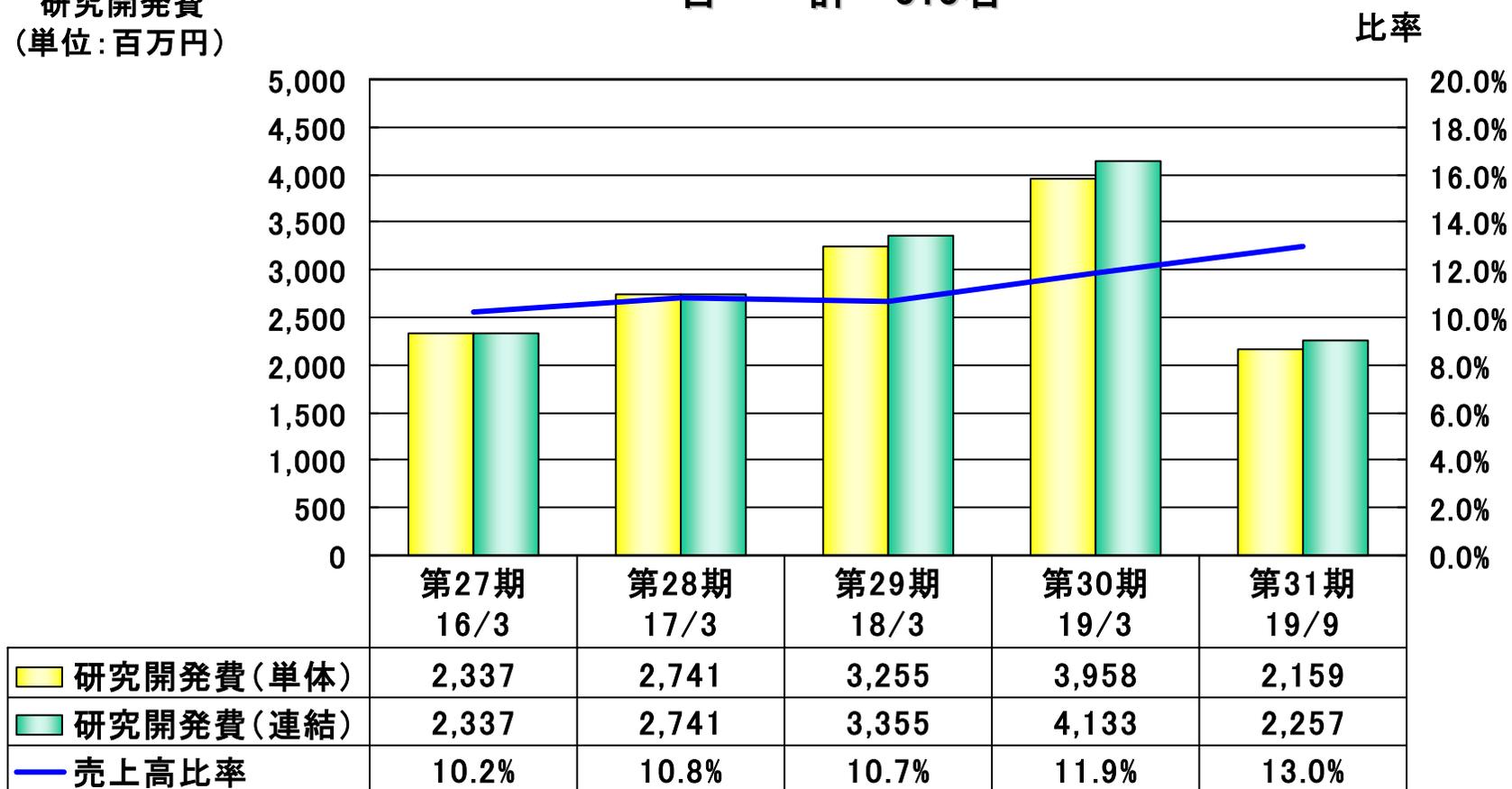


社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成19年9月末/A & D単体)

既存事業 172名 (55.0%) 開発人員比率
 新規事業 141名 (45.0%) (単体) は50.0%
 合計 313名

研究開発費
(単位:百万円)



※売上高比率は連結売上で算出

AND
株式会社 **エー・アンド・ティ**